



SGN News



第46号 2025年9月
滋賀グリーン活動ネットワーク
ニュース

～滋賀から「グリーン経済」をつくる～

企画広報事業 グリーン購入シンポジウム2025

世界のエネルギーと脱炭素問題 掘って掘って掘りまくって本当にいいの?!

～カーボンプライシングが2026年度から本格運用、中小企業が備えるべきこととは～

【会場(コラボしが21 3階 大会議室)】開催報告

◆開催日: 2025年6月5日(木)

◆参加者: 約70名

プログラム

- 開会挨拶 秋山 道雄 (SGN会長)
- 基調講演 『カーボンプライシングの今後の展望: ビジネスへの影響は?』
有村 俊秀氏 (早稲田大学・政治経済学術院教授、同・環境経済経営研究所 所長)
- 事例報告 『中小企業が仕掛けるエネルギーと脱炭素』 青山 裕史氏 (油藤商事株式会社 代表取締役)
- フロアトーク 『中小企業が元気にグリーンに生き残っていくために』 有村 俊秀氏×青山 裕史氏



有村 俊秀氏 青山 裕史氏



フロアトークの様子

カーボンプライシングとは、炭素に価格を付け、排出者の行動を変容させる政策手法のことです。CO₂排出に価格をつけることで、企業はもちろんのことその先にある過程での行動を「脱炭素」へと変えていくための手段のひとつと言えます。日本でも2026年度から本格的に運用が開始することが決まっており、まず手始めは排出10万トン以上の企業に参加が義務付けられました。今後徐々に広がりを見せると考えられておりますが、今から何を備えれば良いのでしょうか。

世界に目を向けると保護主義的な政策が増え、環境問題が軽視されるような動きも見られますが、2025年も年初から気候変動が激しく、これ以上環境への取り組みを足踏みすることはできません。基調講演と事例報告、フロアトークで理解を深め、今から一歩踏み出すために本シンポジウムを開催しました。

基調講演『カーボンプライシングの今後の展望: ビジネスへの影響は?』 有村 俊秀氏

欧州では航空券を買うと飛行の排出をオフセットする画面が出てくる、というお話から始まり、カーボンプライシング (以下CPと略) とは何か、非常に丁寧に説明いただきました。現在の経済の仕組みはとてもよく出来ているが、経済活動の結果として、取引に関わっていない第三者に環境汚染などの不利益が生じる「外部不経済」が起きているのが問題なので、環境に値段を付けて市場の中へ入れてしまおう、というのがCPの考え方とのことです。炭素税や排出量取引など、方法は幾つかありますが、CPにより食生活が変化する可能性にも言及されました。

グリーン・トランスフォーメーション (以下GXと略) とは排出削減と競争力向上の実現に向けて経済社会システム全体の変革のことですが、地域経済にも変革の波が訪れることから、中小企業にもチャンスであると強調されました。2023年5月成立のGX実行推進法、2025年5月に成立したGX-ETS義務化では、今後中小企業にも影響が考えられるとのことです。もうひとつのCPとしてのカーボンプレジットにも触れられ、具体的な活用事例をお話いただきました。

事例報告『中小企業が仕掛けるエネルギーと脱炭素』 青山 裕史氏

近年需要が高まっているSAFや合成燃料などの次世代燃料について詳しく説明いただきました。ガソリンのカーボンニュートラルは重要であり、「人工的な石油」と呼ばれる合成燃料の中でも再生可能エネルギーを使って生成された水素を利用するe-fuelは印象的でした。昨年仕事で深圳 (中国) を訪れた際に、6割がEV、タクシーとバスは10割EVであり、バスの停留所前後100mで非接触充電が可能となることを知り、日本は10年遅れていると驚いたことを話され、会場の皆さまも印象に残ったようでした。

SDGsの次にくるものとして「ウェルビーイング」「サーキュラーエコノミー」を挙げられ、エネルギーの視点で中小企業にできることとして、スコープ3に注目されており、実践事例をお話いただきました。

フロアトーク『中小企業が元気にグリーンに生き残っていくために』 有村 俊秀氏×青山 裕史氏

質疑応答を兼ねてフロアトークをしていただきました。今から中小企業が段階的に準備するために何から手をつけるべきか? やヨーロッパの中小企業の脱炭素への取り組みは? など、非常に多くの質問が出て、皆さんがシンポジウムを通じて様々な問題意識や危機感を抱いておられることがよくわかりました。

会員交流会

6つのグループに分かれて、シンポジウムのテーマである「世界のエネルギーと脱炭素問題」「カーボンプライシング」や「滋賀グリーン活動ネットワークに期待すること」などについてざっくばらんにお話いただきました。ファシリテーターはそれぞれSGN役員の皆さまにお務めいただきました。時間が来ても名刺交換しながら熱心にお話されるなど非常に盛り上がりしました。

懇親会 会員交流会終了後、場所を移動して懇親会を開催いたしました。約30名の皆さまにご参加いただきました。

INDEX



- グリーン購入シンポジウム2025 1
- 第7期役員紹介 2
 - ◎会長、副会長、理事、監事、幹事
- SGN会員でつなぐリレートーク 株式会社 叶 匠寿庵 .. 6
- 速報 めざせ! 未来よし! 第95回「こんにちは、三日月です!」でSGN役員と知事が意見交換 6

- エコ情報室
「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例」施行3年を迎えて 7
- 新規会員からひとこと 7
- 会員発エコ商品情報 8
- 今さら聞けない用語集 8

一般社団法人 滋賀グリーン活動ネットワーク

第 7 期 役 員 紹 介

6月5日に開催した第16回定時会員総会にて第7期役員が決定しました。
メッセージと共にご紹介します。

「猛暑の時代に」

会 長

滋賀県立大学 名誉教授

秋 山 道 雄



6月5日に開催された第16回定時会員総会で役員改選の結果、新たな年度の役員として再選されました。今期もよろしくお願いいたします。

新たな年度が始まってほどなくすると、猛暑が続き、あっけなく梅雨が明けてしまいました。今年の6月は、観測史上最も暑いという記録が生み出されています。滋賀県では地球温暖化対策としてCO₂ネットゼロ社会づくりが進められていますが、これからは地球温暖化の緩和策と並んで適応策が求められる状況にあることを実感させられる日々です。

ヒートアイランド現象といえば、これまでは大都市中心部や内陸の一部の盆地で発生するものとみられてきました。しかし、昨今の猛暑に接すると、これは当地においても無縁ではなくなりつつあるのではないかと思います。滋賀県の地域特性を考慮すると、これへの対策として水のネットワークと緑地を組み合わせたグリーンインフラを活用して、場所の特性にふさわしい適応策を実践してみるという構想も一考に値するのではないのでしょうか。

昨年11月に開催されたグリーン経済フォーラムでは、高橋真樹氏に「断熱が日本の中小企業を救う」という講演をして頂きました。建築物に断熱のための仕掛けを施していくという方法に加えて、事業所内外での緑化の工夫と敷地内外での水路や水流の仕掛けを工夫することによって、ヒートアイランド現象への対応が発揮できるのではないかと考えています。しかも緑化の推進は、CO₂の吸収や生物多様性の保全にも寄与していくことでしょう。



副会長

滋賀県立大学
環境科学部
教授

高 橋 卓 也

彦根の滋賀県立大学で、環境経営、森林経済、森林政策の教育研究をしております。大学教育とSGNの活動とのマッチングに挑戦中です。また、MORIと暮らしの研究会では企業と森林とをどう近づけるかにも取り組んでおります。2030年を目標年とするSDGsの次はウェルビーイング（幸福、健康、福祉）だと言われることもあるそうですが、森林からの幸福度をどう増やしていくかも研究課題としております。参加しやすく、ためになる活動をご一緒につくっていきましょう。



副会長

公益財団法人
淡海環境保全財団
理事長

高 木 浩 文

琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境は、私たちが健康で快適に暮らすための基盤となるものです。淡海環境保全財団は、自然と人との共生をめざして、ネイチャーポジティブ、ネット・ゼロ、サーキュラーエコノミーの3つの観点から相互に関連する取組を展開することにより、持続可能な社会の実現に寄与したいと考えています。今後も、事業者、大学、行政等と強いつながりをもつ滋賀グリーン活動ネットワークとともにMLGsの達成に向け、地域に根差した取組を一步一步着実に推進してまいります。

理事



株式会社 沢田商店
代表取締役

沢田 昌宏

温暖化対策待ったなしの状況で、トランプ政権は逆行を続けています。混沌とする中で、中小企業は環境対策と付加価値づくりをどのように対応していけば良いのでしょうか？ 皆さんと考える場になれば良いと思います。



日本電気硝子株式会社
環境部 担当部長

外間 喜春

当社では、CSRに関する「マテリアリティ」として、「環境」「多様性」「地域」の3つを特定しています。これらの3つを「持続可能な開発目標(SDGs)」につながるものとして重視しています。「環境」では、“自然との共生”を大切な価値観として環境に優しいモノづくりに努めています。今後も、皆さんと一緒に、価値観を共有し、社会の持続可能な発展に貢献していきます。



株式会社 平和堂
サステナビリティ推進室 室長

鷗鷯 真知子

近年の地球温暖化にともなう異常気象の増加、自然災害の激甚化、生態系や農作物への悪影響などは、地域の人々の生活はもとより企業を運営する上でも大きな影響が予想されます。このような状況からも「滋賀からグリーン経済をつくる」ための活動を、皆さまと共に推進してまいります。



NPO 碧いびわ湖
代表理事

村上 悟

先日、SGN総会で出会った企業の方が、不登校の子どもたちの工場見学に協力を申し出てくださいました。

自然も子どもも、社会の宝。人格でつながり合い、組織の枠を超えて協力し合えるネットワークでありたいと願います。



滋賀県
会計管理局 次長

野瀬 千晴

滋賀県庁では、これまでから環境に配慮した物品・役務の調達を推進してきました。近年、気候変動により災害が激甚化・頻発化する中、環境に配慮した行動がますます求められ、重要になっています。私たちの行動や取組が、社会や未来を変えていくとの思いの下、会員のみなさまと力を合わせ、滋賀からグリーン購入の輪をより一層広めていきたいと考えています。



草津市
環境経済部 部長

太田 一郎

当市では、温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするゼロカーボンシティの実現に向け、地域の特性を踏まえた地球温暖化対策を総合的かつ計画的に進めております。小さな選択の積み重ねが、大きな環境保全効果を生み出し、日常の購入行動で「グリーン購入」を意識することが非常に重要であり、市民、事業者・団体の皆さまと連携を深めながら、普及を進めて参ります。

監事



株式会社 滋賀銀行
総合企画部 サステナブル戦略室 室長

山本 卓也

金融業界では、気候変動や生物多様性がもたらす経営上のリスクと機会が注目されるようになり、企業に対して分析や情報開示を求める動きが進んでいます。環境への取り組みが、費用や我慢を強いるものではなく、企業の成長や地域の発展につながるポジティブな活動として広がるよう、皆さまと一緒に取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



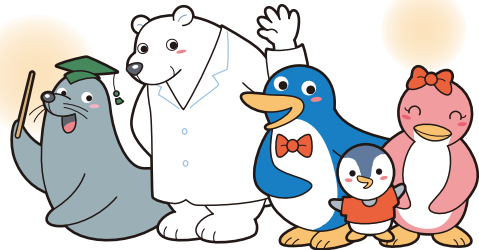
公益財団法人 滋賀県産業支援プラザ
常務理事 兼 事務局長

笹井 仁治

プラザでは、設立以来中小企業者の皆さんに寄り添い、未来を見据えSDGsの理念を念頭に各種支援に努めています。特に、企業の脱炭素化に向けた取組については、省エネ診断から設備導入、SBT認証取得までワンストップで取り組んでおります。これからも皆さんとともに、CO₂ネットゼロ社会の実現を目指してまいります。よろしくお願いいたします。

幹 事

幹事には、企業・各種団体・県および市町から26団体に組織としてご就任いただいています。SGN事業の企画・運営は幹事会で行っています。



アインズ株式会社



代表取締役専務

谷 康夫

当社は、様々な社会課題の解決に挑戦し、サステナブルな社会に貢献する企業として活動しております。ソーシャルグッドプロデュース企業として、地域社会に貢献する商品・サービスをご提案します。

油藤商事株式会社



代表取締役

青山 裕史

脱石油・脱炭素時代のガソリンスタンドの在り方を考えると色々なイメージが湧いてきます。そのイメージを具現化する1つのキーワードが「グリーン」であるのは間違いないでしょう。しっかりとスローエネルギーを展開していきたいです。

大阪ガス株式会社 滋賀事業所



支配人補佐

小林 雅幸

エネルギーを中心に事業展開するDaigasグループにとって環境保全是重要な使命です。さらなるエネルギーと資源の効率的利用と低・脱炭素化に挑戦し、持続可能な社会の発展に貢献します。

株式会社昭建



試験研究所 所長

高田 清義

滋賀で大正12年の創業以来、100年を迎える歴史を育んで参りました。事業は、総合建設・インフラ整備・建設資材販売・グリーンエネルギー事業・産業廃棄物の再資源化を通して社会に貢献します。

株式会社ダイフク



サステナビリティ推進部 参事

横地 富重

当社は、「ダイフク環境ビジョン2050」を掲げ、気候変動への対応、資源循環の促進、自然との共生を重点領域としています。企業連携で社会課題の解決に向けて、取組みたいと思います。

トヨタモビリティ滋賀株式会社



総務部 次長

片岡 哲

今年度より新たに幹事を仰せつかりましたトヨタモビリティ滋賀株式会社の片岡哲(かたおか さとし)と申します。滋賀グリーン活動ネットワーク様に少しでも貢献できるよう協力できればと存じます。

日本電気硝子株式会社



環境部 担当部長

大下 浩之

当社は「自然との共生」を大切な価値観とし、環境にやさしいモノづくりに努めています。環境部に席を置き、当社の環境やCSRの取り組みを通じて社会の持続可能な発展に貢献したいと考えています。

びわ湖パナソニックファミリー会



パナソニック株式会社
くらしアプライアンス社
人事センター 総務部 部長

小山 和俊

びわ湖を有する滋賀県を中心に事業活動をさせて頂いているパナソニックグループの集まりです。地域の皆様と一緒に地球環境を次世代に繋いでいくよう取り組んで参ります。

びわ湖放送株式会社



取締役経営戦略本部長

松本 圭司

野洲のおっさんびわ湖1周ごみ拾い行脚は、今年で15年目を迎えました。皆さまのお蔭で年々盛り上がりを見せています。地域メディアとして環境啓発につながる情報発信に努めてまいります。

藤野商事株式会社



専務取締役

中村 明久

気候変動を身近に感じるようになり「脱炭素」の必要性を肌で感じるようになって、取組については大企業とは大きな差があると感じています。中小企業ができることを学び、実行していきたいと考えます。

ベストハウスネクスト株式会社



代表取締役

吉本 智

滋賀の木や自然の力を活かして、心地よい暮らしを。ネットワークの皆さんと広げていきたいです。

株式会社ミタカグループホールディングス



代表取締役

三峰 教代

1979年から廃棄物処理業を営んでおりますミタカグループの三峰です。「人と地球を笑顔に」という理念のもと、環境保全の最前線で日々活動しています。滋賀から「グリーン経済をつくる」をビジョンに掲げるSGNとともに、グリーン経済を活性化させ、持続可能な社会の実現のために取り組んでいきたいです。よろしくをお願いします。

リコージャパン株式会社 滋賀支社



デジタルサービス営業部
部長

川島 圭

リコージャパンは持続可能な社会の実現に向けたデジタルサービスの提供を通じてMLGs達成に貢献します。

特定非営利活動法人 愛のまちエコ倶楽部



事務局長

伊藤 真也

私たちは東近江市で「菜の花エコプロジェクト」を通して、自立した地域資源循環社会をめざす取組を柱に活動しております。暮らしの中から食とエネルギーの自給を目指して一緒に取組んでいきましょう！

公益財団法人 淡海環境保全財団



アドバイザー

北川 容子

滋賀県における温暖化防止や環境保全を推進するため、家庭、学校、事業所への啓発活動を行っています。今後も会員の皆様と連携し、SGNのさらなる拡大と発展に貢献したいと考えています。

グリーン近江農業協同組合



管理部 総務課 課長

北脇 大志

第7期の役員に就任いたしましたグリーン近江農業協同組合の北脇大志と申します。至らぬ点があるかと思いますが、皆様方とともに歩んでいければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

滋賀県生活協同組合連合会



専務理事

森井 徹

「滋賀からグリーン経済をつくる」、消費者の立場から「買う責任」と「使う責任」、ふだんの暮らしの中で自覚して、環境にやさしい、負荷をかけないで軽減していくことを学び、つながり、伝えあっていると思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

滋賀県地域女性団体連合会



副会長

井上 多佳子

環境にこだわる滋賀県の社会教育関係団体として学習や活動を重ねています。持続可能な未来につながる消費行動を、地域の皆さんと一緒に関わり合いながら進めたいと思います。

滋賀県立大学廃棄物バスターズ



代表

山下 美空

当団体は、清掃活動や出前講義など、環境保全に関する活動を行っています。最近では、県内の廃棄プラスチックを回収し、雨水タンクの作製を行っています。どうぞよろしくお願いいたします。

輪の国びわ湖推進協議会



運営委員

南村 多津恵

人手不足の時代、マイカー通勤が中心の事業所はクルマ離れの著しい若者から選ばれなくなってきました。CO₂ネットゼロの取組も待たなし。エコ交通研究会は、皆さんとともに対応策を考えます。

竜王町



生活安全課 主事

田村 翔太

微力ながら前向きに取り組む姿勢を大事にし、活動を通して学びを重ねていくことで少しでも貢献できればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

高島市



総務部 総務課 主事

金田 大史

官民一体となりグリーン活動を推進することで、本活動の認知度向上に繋がればと考えております。まだまだ未熟ですが、会員皆様のお力をお借りしながら、努力していきたいと思っています。

長浜市



環境保全課 主事

遠藤 滉己

長浜市では「ながはまゼロカーボンビジョン2050」を策定し、官民連携でゼロカーボン実現を目指しています。持続可能な社会の実現に向けて、皆様、今後ともよろしくお願いいたします。

東近江市



環境部 森と水政策課 主査

竹中 壽人

東近江市では、平成20年度から環境マネジメントシステム「えこ・すまいる」を運用し、環境負荷低減のための取組を全庁挙げて推進しています。引き続きグリーン購入の促進を進めてまいります。

栗東市



環境経済部 環境政策課
主事

中嶋 品太

ISO14001に引き続き、環境レムズにおいてグリーン購入促進のための手順書を定め、意識の向上、浸透に努めています。今後もさらに啓発活動を継続し、取り組みを推進してまいります。

滋賀県



会計管理局 管理課 主幹

三井 都史子

滋賀県がグリーン購入実践プラン滋賀登録制度を始めて20年！事業者の皆様の環境意識の高さを生かして、これからの滋賀県と一緒に考えていきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。



Relay
Talk

SGN会員でつなぐ

リレートーク>>>

グリーン近江農業協同組合からのご紹介

株式会社 叶 匠寿庵

総務部 部長 兼 秘書広報課 課長

池田 典子さん



株式会社 叶 匠寿庵は、昭和33年に大津市長等で創業した和菓子屋です。創業者の芝田清次は日本人の優しさ・美しさを伝えたい、という一念で市役所の商工観光課を退職し、独力で創作和菓子に取り組みました。創業者が考案した菓子のネーミングは近江にちなんだ故事や古語から選ばれるケースが多く、文学や歴史を思い起こすように仕上げています。「あも」「関伽井」「標野」は発売から50年以上経つロングセラー商品となっています。

さらに、菓子づくりに欠かせない創造力を求め、昭和60年には大津市大石龍門に本社・工場を移設し、「寿長生の郷（すないのさと）」を開きました。ここは、お菓子売り場やお茶室、お食事処などがあるお客様向けの施設ですが、私たちは「農工ひとつ」を唱え、菓子の素材を作りながら、存続する里山の景観を考え保全活動を実施しています。

今回はそのうちのひとつ、イチモンジタナゴの保全について書きたいと思います。イチモンジタナゴは、琵琶湖周辺ではコイ科のタナゴのことを「ぼてじゃこ」または「ぼて」と言って親しみのある魚でしたが、近年野生では見つからず、環境省レッドリストでは絶滅危惧IA類、滋賀県では指定希少野生動植物に指定されて採集禁止となっています。私たちは、保護活動をされている市民団体ぼてじゃこトラスト様からのお声かけにより、微力ながら寿長生の郷にある池で守り、繁殖できるように環境を整えています。

小さな池ですが、水草駆除や数年に一度の泥上げは大変な労力を伴います。しかし、モニタリング調査で稚魚の発生状況、生育状態の確認をし、無事に育っていることがわかった時、またこの池で様々な生き物たちを発見した時、そしてそれを子どもたちと一緒に共有できた時、改めて命の繋がりやこうした活動の大切さを感じるのです。



寿長生の郷 全景

里山では様々な動植物が見られます。それらを守り、育てることが、私たちの本業である「菓子づくり」にも繋がると考えています。開郷して40年が経ちましたが、これからも環境を整えながら、自然から学び、それをお客様とも共有できるような取り組みを行ってまいります。ぜひ、皆さまも寿長生の郷にお立ち寄りください。

次回は株式会社口ハス長浜さんをお願いします。



イチモンジタナゴ



調査後の放流の様子

株式会社 叶 匠寿庵

滋賀県大津市大石龍門4丁目2番1号

TEL : 077-546-3477

URL : <https://kanou.com/>

速報

めざせ!未来よし! 第95回「こんにちは、三日月です!!」で
SGN役員と知事が意見交換

2025年6月5日(木)「第16回定時会員総会」「グリーン購入シンポジウム2025」「会員交流会」の後に、滋賀グリーン活動ネットワークを代表して、役員の皆さまと三日月大造滋賀県知事との意見交換が行われました。テーマはSGNビジョンでもある『滋賀から「グリーン経済」をつくる』。

知事のご挨拶の後、秋山会長がSGNの歴史や団体の意義などをお話され、その後意見交換となりました。SGNで長年理事や幹事をお勤めいただいている企業・団体の皆さまから幅広く忌憚のない意見が出されました。

当初の予定時間をオーバーし、知事からも「またぜひやりましょう。」とのお言葉もいただきました。今後更にSGNの活動が発展し、滋賀から「グリーン経済」をつくる～産・官・民・学と協働してMLGsの達成を目指し、子や孫の世代まで幸せや豊かさを実感できる持続可能で「未来よし」な社会をつくる～というビジョンが達成できるよう、会員の皆さまと進んでいきたいと思います。 詳細は県ホームページをご覧ください ⇒



最後に全員で記念撮影



エコ情報室

「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例」施行3年を迎えて

滋賀県 総合企画部 CO₂ネットゼロ推進課

滋賀県では、令和2年10月の国の「2050年カーボンニュートラル宣言」に先立ち、令和2年1月に「しがCO₂ネットゼロムーブメント」キックオフ宣言を行い、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ（CO₂ネットゼロ）にすることを目指してきました。

キックオフ宣言を具体的な取組として定め、その取組を通じて、より豊かな滋賀を次の世代に引き継いでいくため、「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例」および「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくり推進計画」を令和4年4月1日に施行し、2050年のCO₂ネットゼロを見据えた中期目標として、2030年度までに「①温室効果ガス排出量を2013年度比で50%削減する」、「②再生可能エネルギー導入量を2019年度比で2.1倍（176.6万kW）にする」という2つの野心的な目標を掲げました。県民・事業者・行政等が連携して省エネ・再エネを推進し温室効果ガス排出量の削減を図るとともに、地域や産業の持続

的発展にもつながるCO₂ネットゼロ社会の実現に向けて取組を進めているところです。とりわけ、事業者の方には、上記条例に基づく「事業者行動計画書制度」において温室効果ガスの排出と再生可能エネルギーの利活用を進める取組を計画・報告していただき、それらの報告書を県HPで公表することで、「CO₂ネットゼロ社会づくり」に積極的な企業の見える化を行っています。

令和7年2月に国の「地球温暖化対策計画」等が改定されたことを受け、「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくり推進計画」も令和7年度中に見直しを行い、CO₂ネットゼロに向けた取組をさらに推進していきます。2050年CO₂ネットゼロの実現に向けて、皆様の事業活動や家庭生活でも省エネ・再エネを積極的に取り入れていただくことが重要です。

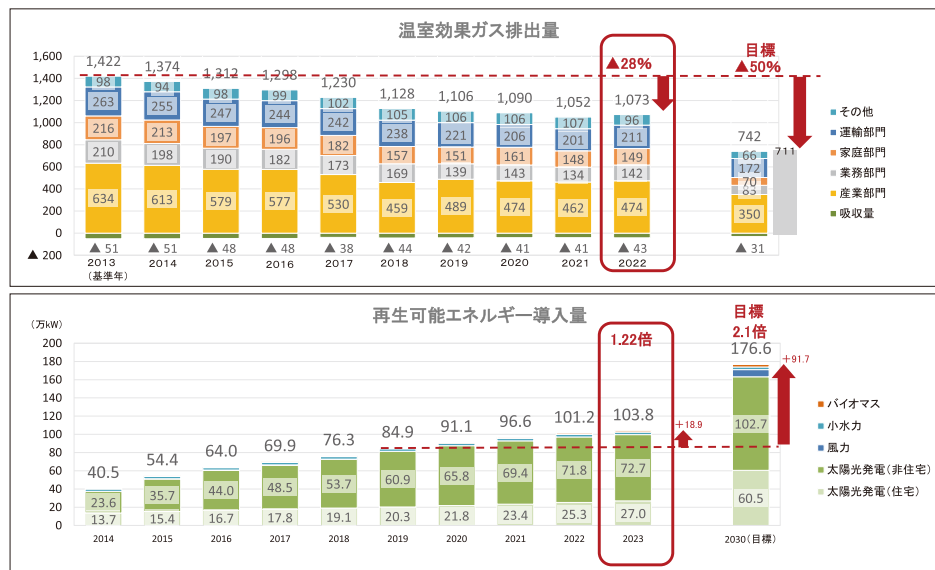
県では、それらを支援するため、省エネ・再エネ設備導入への補助金や、省エネ取組のためのアドバイスを行う制度などを設けております。SGN会員の皆様にもぜひご利用いただければ幸いです。

上記の支援制度の詳細は県が運営するウェブサイト「ゼロナビしが」にまとめて掲載しておりますので、省エネ・再エネ導入の際にぜひご活用ください。

ゼロナビしがURL：
<https://zeronavi.shiga.jp/>



図：中期目標の進捗状況



新規会員から ひとつのこと

2025年2月1日から2025年7月31日までの入会者
(団体名の50音順)



東田電機産業株式会社

代表取締役社長 東田 伸郎 氏

弊社は、HEICの愛称で、主に滋賀県内で活動するFA、制御機器、電材の専門技術商社です。省エネや環境性に優れた商品を県内の企業様に供給しています。

現会員数：419 団体 [企業 346、行政 22、団体 51] (2025年9月1日現在)



会員発エコ商品情報

次号掲載
「エコ商品情報」
募集中!

エアコン用省エネルギー部材 『MS-RDK』レンタル

株式会社芝山タイヤ工業所

業務用エアコンのフィルターにシートを置くだけで消費電力約13.5%削減（実績平均値）できる省エネルギー部材です。

シート設置後も吸込風量は減らないため、設定温度はそのままでお客様や従業員の快適性を維持しながら、消費電力を削減でき、CO₂削減も実現可能です。

初期費用無料で月額レンタル制にてお気軽に導入できます。



〈お問合せ〉株式会社芝山タイヤ工業所



〒520-0832 滋賀県大津市栗津町13-63
TEL: 077-537-1406
E-mail: info@team-s.net
URL: https://www.team-s.net

～地元産生姜と幻の唐辛子を使用～ 「余呉のジンジャーエール(辛口)」

株式会社ロハス長浜

中山間地域である長浜市北部において、獣害に強い作物として栽培されている生姜と柚子。そして、賤ヶ岳合戦の折りに、秀吉軍が持ち込み、長きにわたり門外不出とされた幻の在来種唐辛子「よのみ」を原材料とした、長浜の自然と歴史が詰まったクラフトサイダーです。

地域資源の活用による地域経済の活性化を目指した「ローカルSDGs」の取り組みから生まれたこの商品。

甘さを控えめに素材の風味を活かした味わいは、日常のリフレッシュに、また贈り物にも最適です。



〈お問合せ〉株式会社ロハス長浜



〒529-0515 滋賀県長浜市余呉町中之郷250
TEL: 0749-86-3821 FAX: 0749-86-3890
URL: https://lohas-nagahama.com

今さら聞けない用語集

【ウェルビーイング】

「ウェルビーイング (well-being)」という言葉は、世界保健機関 (WHO) が1946年の憲章で「健康」を定義する際に初めて言及されたものです。身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念と言われています。

2024年5月21日、環境省は環境基本法に基づき、「第六次環境基本計画」を策定しました。この計画は、日本政府の2030年までの環境政策の基本方針をまとめたもので、その特徴は「環境の保全を通じて、現在及び将来の国民一人一人の生活の質、幸福度、ウェルビーイング、経済厚生への向上」を最上位の目的としていることが特徴です。GDPなどの市場価値だけでなく、幸福や生活の質といった非市場価値も追求していくことを強調されており、鍵となるのは「自然資本の維持・回復・充実」と言われています。日本語訳がなく、均一化が難しいことから定義が明確に定められていないのも興味深いところだ。

編集後記

記憶に新しい6月の「異常高温」。極端気象アトリビューションセンター (WAC) の分析によると、あれは「自然の異常ではなく、人間活動がもたらした結果」であると、わかったそうです。これを聞いて、「でしょうね」と呟いたのは、私だけではないでしょう。天が破けたような豪雨、夏を待たず4月に成虫になるカブトムシ、もはや行方不明の春と秋…。年々ひどくなる「異常気象」は人間の仕業だと、世界中の誰もが、とくに気づいているのだと思います。けれど、わかっているけど動けない。それが人間です。それに、誰か一人がどんなに頑張ったところで、その一人一人に、天の綻びを繕えるはずもありません。だからやっぱり、私たちにできることは、「みんなで小さな一歩」を進んでいくこと。「一人の一歩」を100人、いや1000人で踏み出すために、今、SGNにできることは何か。今後も、会員の皆様とともに、考え続けて参ります。

(事務局：山下)



編集・発行／一般社団法人 滋賀グリーン活動ネットワーク

〒520-0807 滋賀県大津市松本1-2-1 大津合同庁舎6階
TEL: 077-510-3585 FAX: 077-510-3586
Eメール: sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL: https://www.shigagpn.gr.jp/

